



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

〜第三〇六号〜

白露

九月八日

## 太田小三郎翁

神宮徴古館近くの御幸道路沿いに、大きな石碑が立ちます。明治一五〇年を記念してこのたび再整備されたのですが、明治維新後の伊勢で活躍したある人物の顕彰碑でした。太田小三郎といっています。

明治時代初めの伊勢は、御師制度の廃止という大きな転換期。伊勢参宮をプロデュースしてきた御師が不在となり、参宮者が減少していたのです。

太田小三郎は九州生まれの勤皇の志士で、縁あって、古市の備前屋の跡取りとなり、旅館経営に腕を振るっています。そして、地元の人々と御師制度廃止後の伊勢について議論を重ねていましたが、明治十九年（一八八六）、神宮少宮司の浦田長民らと「神苑会」を立ち上げます。当初は地元中心でしたが、有栖川宮を初代総裁にいただくなど、全国規模となり、大きな事業を展開。伊勢神宮の神苑整備にとどまらず、宮川電気（水力発電所）、伊勢電気鉄道（チンチン電車）、参宮鉄道（JR紀勢本線参宮線）、山田銀行、御幸道路、神宮徴古館など、次々にインフラを整えていくのです。

まさしく、伊勢に明治という近代化を推し進めた人物といえるでしょう。私も神苑会の中心人物としては知っていましたが、これほどまでに伊勢で事業をおこしていたとは驚きました。

また、太田ら神苑会は、内宮の林崎文庫、外宮の豊宮崎文庫の蔵書が散逸しないよう、これらを買収し取り、神宮文庫建設費用とともに神宮に献納しています。伊勢の近代化を支え、歴史も守った人物なのでした。

文 千種清美



# おかげの里便り

おかげ横丁

## ○ 来る福招き猫まつり

9月29日は、「来る福(くるふく)」と縁起良く読めることから、招き猫の愛好家団体「日本招猫倶楽部」が平成7年に制定した招き猫の記念日で、日本記念日協会に正式認定されています。

年に一度、我々人間のために日々、福を招き続けてくれる招き猫たちに感謝すると共に、招き猫たちとの出会いを繋ぐ記念行事が「来る福招き猫まつり」です。

この地を訪れた日本招猫倶楽部のメンバーは「この地こそ招き猫感謝祭を開催するにふさわしい」と強く感じ、平成7年、おかげ横丁とともに「第1回 来る福招き猫まつり」を開催し、現在に至ります。

と き／9月14日(土)～9月29日(日)

9:29～17:29 (催しにより異なる)

ところ／おかげ横丁一帯

※諸事情により、内容が一部変更または中止になる場合もございます。

## ● 招き猫現代作家展

招き猫は、江戸末期に日本で誕生し、現在では国内外で親しまれ個性あふれる作品として表現されるようになりました。そんな中から「吉兆招福亭」が選抜した招き猫作家11名が揃います。

ところ／伊勢路名産味の館2階「大黒ホール」

出展作家(予定)／天野千恵美／小澤康磨／櫻井魔己子／佐藤法雪／佐山泰弘／松風直美／蟬丸／平林義教・利依子／布施和佳子／水谷満／もりわじん <五十音順・敬称略>

五十鈴塾

## ○ 伊勢みやげの変遷

荷物にならない伊勢みやげは「伊勢音頭」、しかし村総出で送ってくれた伊勢参り、形のあるお土産無しではすまされない、第一に挙げられるのはいわゆる御札(神宮大麻)、そして漢方薬、軽くて実用的なので、伊勢では萬金丹が有名になりました。ちょっと値のはるものでは根付、擬革紙など。食べ物がおみやげとなったのは明治になって鉄道が引かれてからの事。ずっと昔からあったおみやげと思っていたものが、意外と最近であったとか、今ではもうすっかり消えてしまったおみやげとかお伊勢参りに欠かせないおみやげの移り変わりをお話いただきます。

と き／9月18日(水) 18:30～20:00

講 師／山中 一孝(豆腐庵山中代表取締役)

参加料／一般1,300円 会員800円

場 所／五十鈴塾右王舎

※お問い合わせ・お申込み 0596-20-8251

五十鈴茶屋

## ○ 節気菓子

はぎ  
萩

道明寺入りの葛で白餡を包み、秋風に揺れながら花びらに露を抱く、萩の姿を表現しました。

みのり

ういろ生地で柿餡を包み、蓮台寺柿独特の角張った姿に似せました。ひと足早い伊勢の秋の実りをどうぞご賞味ください。

げっと  
月兎

こし餡を包んだ道明寺生地に氷餅をまぶし、下界にぴょんと降り立った、白い月兎に見立てました。